

「絵が子どもの想像力を刺激する それが絵本の強みなんです。」

授業前の朝の教室で、ページをめくるたびに目を輝かせる児童を前に、語りかけるように絵本を読み聞かせるのは吉田由美子さん。地元本山小学校で「地域の一員として役に立てれば」とはじめた"読み語り"ボランティアも、スタートから6年が経ちました。現在は、吉田さんを中心に10人の学習支援ボランティアが、週に一度、10分間の絵本の"読み語り"を通して、子どもに絵本の楽しさを伝えています。

「毎回、限られた時間の中で読む絵本のテーマは必ずしも大きなものばかりではありません。小さなテーマであっても、子どもの心に何か残ってくればうれしいですね。」と語る吉田さんが心がけているのは、「良い絵本を選び、その本のメッセージをしっかりと伝える」ということ。絵本選びには時間をかけるという吉田さんがこだわるのは、絵本自体の伝える力。「お話しやテーマはもちろんですけど、絵で子どもの想像力を刺激できるということが絵本の強み。きれいな絵を使っていたり、絵の使い方が面白かったりと、絵本として魅力のあるものを子どもには読んであげたいですね。」と"読み語り"にかける思いを語ってくれました。

「最近は学校の外でも"読み語りの先生!"ってあいさつしてくれる子もいます。」とうれしそうに話す吉田さんが、活動を重ねることで改めて感じはじめたのは"子どもとのつながり"。何気ない日々の触れ合いに喜んだり、久しぶりにみる子の大きな成長に驚いたり、吉田さん自身、地域の中で、子どもとのつながりを実感することが増えてきました。「子どもから私が元気をもらってますね。」と充実した表情を浮かべる吉田さんの"読み語り"教室。6年間で育んできたものは、子どもの想像力だけではないようです。

伝



吉田 由美子さん 大須恵

平成13年10月から本山小学校でボランティアの"読み語り"を始める。現在も、同校の学習支援ボランティアとして"読み語り"を続けながら母子保健推進委員としても活動し、本山地区の地域活動に幅広く参加する。

地域で創る小さな教室～10分間の読み語り～



▲吉田さんの"読み語り"のようす。(1年1組)本山小学校では全校児童を対象に、週に一度"読み語り"の時間を設けています。

学習支援ボランティアに参加してみませんか

「開かれた学校」づくりを目指す本市では、市内の全小学校を対象に、地域の方々からなる「学習支援ボランティア」を募り、教育活動の様々な場面でご協力をいただいています。

今回ご紹介した本山小学校でも、本の"読み語り"を支える10名の「学習支援ボランティア」が活動されていますが、より充実した活動に発展させるためにも、さらに多くの方にご参加いただければと考えています。

ご希望があれば、見学もできますので、「読み語り」活動に興味をお持ちの方は、ぜひ、**教育政策室**（☎82-1208）までお問い合わせください。